

1. 研究目的

本研究は、「楽器を演奏したいが五線譜が読めない」という人を対象とした研究であり、「五線譜が読めるようになることで、音楽を楽しむきっかけをつくる」という狙いで進めた。

大手楽器メーカーのヤマハの調査によると、楽器を弾いたことのない人の内、約6割が「楽器を演奏してみたい」という思いを抱いていることが分かった。その反面、身近な楽器であるピアノに焦点を当ててみると、「五線譜が読めずに挫折した」という意見が多く見受けられ、ニーズと既存教材が合っていないという問題点があった。

2. 調査と分析

ヤマハの調査を踏まえ、身の回りの楽器を演奏できない(五線譜が読めない)人々に、「なぜ五線譜を難しいと感じるのか?」と尋ねた。すると、

- ・ 専門用語がいきなり出てくる
 - ・ 覚えることが多い
 - ・ そもそも内容が理解できない
- という意見が見受けられた。

このことから、できるだけ情報を整理・簡素化し、従来の教材にはないような、新しい表現を用いて制作することにした。そのような表現が可能な楽器として、図示のしやすい鍵盤楽器であるピアノを題材にした。

3. コンセプトの立案

「オトナたのしい」

「オトナ」は従来の教材との大きな違いであり、「たのしい」は五線譜を難しく感じさせないという意味で、このコンセプトを設定した。

何故「オトナ」なのかと言うと、初心者向けのピアノ教材は子供を対象としているのが多く、大人向けのものは少ない。これらのことから、ピアノは大人にとって敷居の高いものになっているのではないかと考え、大人向けの教材とした。

4. デザイン展開

コンセプトを実現するために、以下のようなデザイン展開を行った。

- (1) 普通の教材には載っていないようなユニークな表現を用いる
図の表現で音符を読んでもらったところ、「耳に残るので覚えやすい」という評価を頂いた。

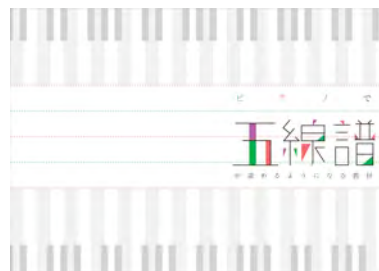


下から読むと「お味噌汁氾濫(はんらん)」



- (2) 言葉ではなくビジュアルイメージで伝える
専門用語より先に、目で見えて理解できるような表現を取り入れている。
- (3) CD を聞きながら進めるページを掲載
本来楽器は感覚的・直感的に操作すべきものであるため、それとのギャップを埋めるために、音源を収録した CD を制作した。
- (4) 難易度によってページのメインカラーを変える
専門的な部分を「上級編」と位置づけることで、ユーザーに安心感を与えるという狙いがある。
- (5) 白を基調としたテンプレートを使用し、図式化されたインデックスを使用する
これによりスッキリと整理された印象にし、「オトナ」を演出した。

5. 完成図



◀ 表紙

6. 結論

検証の結果、すべての人が簡単な五線譜を読むことができるようになり、単音の曲ならば全員が弾くことができた。また、本教材を「楽しい」と言いながら使用してくれたので、本研究の目的を達成できたと考える。

文献

- [1] 大久保有規彦, “ヤマハ、音楽・楽器のレッスンがネットで受けられるサービス”, INTERNET Watch, <http://internet.watch.impress.co.jp/cda/news/2006/03/07/11143.html>, (参照 2014-02-17)